

虎の巻シリーズ 其の四

続・学校で使える「虎の巻」

いろいろな困りごとを抱える子たちへの支援ポイント



この冊子は色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人に見やすいようカラーユニバーサルデザインに配慮してつくられています。

当プロジェクトでは、障がいのある人たちも含め、より多くのみなさまにこの冊子を手にとってもらいたいという思いと、ユニバーサルな考え方がより一層浸透し、誰もが暮らしやすい社会になってほしいとの願いから、「カラーユニバーサルデザイン」を導入しました。

続・学校で使える「虎の巻」

いろいろな困りごとを抱える子たちへの支援ポイント

平成26年3月発行

制作・発行／札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル
TEL:011-211-3851 FAX:011-211-3852



表紙デザインイラスト／栗田 正樹

はじめに

昨年度、教育委員会では、保健福祉局とともにプロジェクトを組み、虎の巻シリーズ其の3「学校で使える虎の巻」を作成、発行しました。そのプロジェクトを進める過程で、冊子に掲載された八つの事例の他にも様々な場面で子どもたちが抱える学習や生活上の困りごとがあることが分かりました。この冊子では「其の3」に載せきれなかったことを中心に扱いました。

一口に「発達障がい」と言っても、コミュニケーション上の難しさもあれば、行動面や学習上の困りごとなど様々です。発達障がいの他にも、教室の中には、見えづらい、聞こえづらい、話すのが苦手など、いろいろな困りごとを抱えている子どもがいます。

彼らの中には通級指導教室に通い専門的な指導を受けている子もいます。しかし、表面的には分かりにくい、周囲に認識されず、適切な対応がされていない子も多くいます。

本冊子が彼らの状況について理解の一助になり、適切な支援や指導へのきっかけになることを願っております。

ご協力いただきました各通級指導教室のご担当、また、それぞれの教室の保護者の会の各位にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局

通級による指導について

通級による指導は、小学校及び中学校の通常の学級に在籍している軽度の障がいのある児童生徒に対して、特別の指導の場（通級指導教室）において、障がいの状況等に応じた特別の指導（自立活動の指導等）を行う教育形態のことです。

通級指導教室では、障がいに基づく困難を児童生徒と周りの人々が主体的に改善できるよう支援することをねらいとしており、児童生徒が在籍する学校（在籍校）と連携を図りながら、支援を進めています。

札幌市では、言語障がい通級指導教室（ことばの教室）、難聴通級指導教室（きこえの教室）、弱視通級指導教室（ひとみの教室）、発達障がい通級指導教室（まなびの教室）を設置しています。

通級による指導を希望する場合には、札幌市教育センター（電話 011-671-3210）での教育相談と就学相談の申込が必要ですので、ご相談ください。

保護者の方の声

幼い時から落ち着きが無く、「躰が悪い困った子だ。」と言われ続けて来ました。本当に困り感が出たのは、団体生活が始まった幼稚園の頃からです。

それでも、「我が子に限って…」と信じ続け、一喜一憂する日々でした。診断を受けてみようと思ったのは三年生の終わり頃、クラスのお母さんの、「何か困ってない？」の一言でした。

学校での子どもの様子をみて、心配して声を掛けてくれたのです。その一声に背中を押されました。

そして、診断されたADHDと初めて聞いた言葉。「我が子の問題行動は、躰や性格が悪いからでは無かったんだ。」と安堵したのを覚えています。

ですが、それと同時に、「これからどうしたら良いのか、どう育てていけば良いのか。」と暗中模索の中、回りの人たちの力を借り、何とか踏ん張ってきた日々でした。見た目では判らない障がいなだけに、誤解や偏見との闘い…。それでも、子どもは少しずつ成長してくれました。

皆さんの更なる理解と出来れば温かく見守って頂ければと思います。

この冊子は、通級指導教室で指導されている先生方やその保護者の方などのお話を元に、学校生活において様々な困難を抱える子どもたちのまわりで発生しがちな

“認識の違いを **ギャップ!!** として表現し、

その解決策となる支援ポイントを **チェンジ!!** として示しています。

双方の理解が深まるほど **グッドジョブ!!** という好結果につながります。

※解決策の実施にあたっては、保護者への説明と理解を得ることを前提としています。

続・学校で使える

「虎の巻」もくじ

それぞれの通級指導教室について…………… 4

ひとみの教室編

まぶしさへの配慮



光を避ければ華麗なジャンプ…………… 8

こっちはどっち?

大きな矢印 大きなサポート…………… 10

きこえの教室編

伝え方のコツ



特性が分かればしっかり伝わる…………… 12

もうひと工夫

文字と視線でコミュニケーション…………… 14

ことばの教室編

説明と理解



違いを共有 和気あいあい…………… 16

基本は受容

受け入れられれば自信につながる…………… 18

まなびの教室編

こころの整理



視界の整理で授業に集中…………… 12

ひとてまが肝心

ちょっとした工夫で自立実現…………… 22

劇的に改善

小さな道具が大きな役割…………… 24

法則を体全体で

ルールを体感 広がる可能性…………… 26

ひとみの教室(弱視通級指導教室)について

【視覚障がい】

視覚障がいとは、視機能の永続的な低下により、学習や生活に支障がある状態をいいます。

学習面では、動作の模倣や文字の読み書き、事物の確認などが苦手な場合があります。

また、生活面では、移動が困難だったり、相手の表情等が読めずコミュニケーションが難しくなる場合があったりします。

学級ではこんなことに困っています…

- 眼鏡をかけても黒板の文字が見えづらく、書き写したり探したりするのに時間がかかってしまい、疲れやすいです。
- 教科書やプリントの文字が読みづらく、行を飛ばしたり読み間違えをしたりしてしまいます。また、画数の多い漢字や、形が似ている文字の読み書きを間違えやすいです。
- 明るいところがまぶしかったり、暗いところが極端に見えづかったりすることや、球技ではボールの軌道が見えづらいので、うまくいかないことがあります。
- 見えづらくても、見えない状況についてまわりに説明することが難しいです。

【ひとみの教室では】

- ☆子どもが「見えづらさ」に自ら対応していくための手段を教え、弱視レンズ等を活用できるように指導しています。
- ☆見えづらいために苦手になりがちな学習内容等を取り出して個別に指導し、子どもの学習活動を支援します。
- ☆担任との懇談や授業参観、電話連絡等を通じて、子どもの在籍校と連携しながら、学校生活が過ごしやすくなるよう支援します。

【本人や保護者の方の声から】

- 周りの子どもと違った行動や見たことがない道具(ルーベや単眼鏡など)を使うと他の子どもたちも気になるので、あらかじめ先生から話してもらえると助かります。
- 低学年の時は特になのですが、声かけをまめにしてほしいと思います。自分のことをよく見ていてくれると思えるだけで気持ちが前向きになれると思います。
- 気持ちがあせると足元に気が回らなくなり、転倒してしまうこともあるので、時間に余裕があるといいです。
- 先生の目線や「あそこ」や「それ」といった指示だけでは目標の確認ができないので、具体的な表現をしてもらえると助かります。
- 座席が後ろになると、先生の手元が見えづらくなり、指示などが分からないことがあります。



きこえの教室(難聴通級指導教室)について

【聴覚障がい】

聴覚障がいとは、身の回りの音や話し言葉が聞こえにくかったり、ほとんど聞こえなかったりする状態をいいます。

聴覚障がいのある子どもたちには、できるだけ早期から適切な対応を行い、音声言語をはじめその他多様なコミュニケーション手段を活用して、その可能性を最大限に伸ばすことが大切です。

学級ではこんなことに困っています…

- 近くで顔が見える状態だと、表情も見え、自分に話されていると分かるのですが、少し離れた所や背後から話しかけられたりすると、気づけずに無視していると思われることがあります。
- いつも周りを見て何をするのが確かめています。きょろきょろして落ち着きがないと思われるがちです。
- 周囲がざわざわしていると、近くても相手の話すことが分かりません。話し手が数人いて、次々と変わっていくと、誰が話しているか分からなくなります。そのため、グループでの話し合いに参加したいのに入るのが難しいです。

【きこえの教室では】

- ☆「人とかがわかることは楽しい」と思える体験や「話を分かってくれた」という思いを積み重ねます。
- ☆「伝えたい」「聞きたい」という意欲や自信を育てます。
- ☆担任との情報交流や授業参観、懇談を行い、「子どもの聞こえにくさ」や「情報保障のための配慮」について共通理解を図るなどして、子どもの学校生活を支援します。

【本人や保護者の方の声から】

- 音楽のテストで、みんなの前で歌わなくてはならなくて、オンチや変だと思われそうで不安でした。
- 喋れているからといって、この子は大丈夫、聞こえているんだねと思わないでほしいです。
- 聞こえ方や補聴器などによっても違うことがあるので、個々に応じて接してくれると助かります。
- 自分が嫌な気持ちになったことなどについて、先生からも説明してもらえると助かります。
- 分からないから見て考えて行動しているのに、「聞こえる」と思われ苦勞が伝わらないです。
- 歌ったり演奏したりするのは、どんなに家で練習しても限界があります。できなくても努力していることが認められないと、心が折れます。



ことばの教室(言語障がい通級指導教室)について

【言語障がい】

言語障がいとは、発音が不明瞭であったり、話し言葉のリズムがスムーズでなかったりするため、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まない状況であること、また、そのために本人が引け目を感じてしまうなど社会生活上不都合な状態であることをいいます。

学級ではこんなことに困っています…

- 進んで挑戦したり取り組んでみたいけれど、ことばが伝わらないと思うとなかなかできません。また、言っているつもりなのに、伝わらないという不便さやイライラから自己評価が低くなってしまいます。(吃音、構音など)
- 話し終わるまで待ってくれないことや、真似されたり、からかわれることもあり、人前で話すことが、どんどんいやになります。(吃音、構音、遅れなど)
- ことばを発せないこと(緘黙^{かんもく}など)や、困っていることが伝わりづらいです。(吃音、構音、遅れなど)

【ことばの教室では】

- ☆子どもの実態を把握し、ことばが育つ土台となるコミュニケーションへの意欲を育てながら、一人一人のことばの状態に合わせた指導を行います。
- ☆人と一緒にいるときの安心感や人とかがわかることの楽しさ、話したい気持ち、よく聞こうとする態度などを培います。
- ☆在籍校や家庭などと連携・協力をしながら、よりよい言語環境の整備に向けた取組を行います。

【本人や保護者の方の声から】

- 話すことに対して自信がなくなってきたのが、話す声がどんどん小さくなってきたのが心配です。
- 会話中にタイミング良く言葉がでないため、誤解されることが多いのが将来に向けて心配です。
- 友達との会話中に聞き返されることが多いため、友達との関係でストレスがたまっているのが心配です。
- 人前で話すことに恐怖を感じているようで、学校に行きたがらないときがあります。
- 授業などでみんなの前で発表するときうまく話せなくて泣いてしまうことがあります。
- 発音が不明瞭なのが、まわりからわざとふざけて話していると思われることがあります。
- 自分は他人と違うと思ひこんでふさぎこみがちなことがあります。



まなびの教室(発達障がい通級指導教室)について

【発達障がい】

発達障がいとは、特定の脳の器質的変化をもって生まれたために、ある一定の特性をもちます。今回は、読字障害や書字障害などの特性がある「学習障がい」と、注意の持続に関する困難や多動、衝動傾向が見られる「注意欠陥多動性障がい」を主に取り上げています。

学級ではこんなことに困っています…

- 筆圧が強かったり、弱かったり、升目にそって書くことが苦手だったりして、高学年になっても人が読めるような文字を書けません。
- 身体の動きが「ぎこちなく」なってしまう、走り方が独特であったり、スキップができなかったりするなど、周りのみんなの動きに合わすことができません。
- ついつい言葉よりも手や足を使って相手に思いを伝えようとしてしまい、なかなか行動が変えられず困っています。
- 長い時間、集中することが苦手なため、ふいっと立ち上がり教室内をウロウロと歩いてしまったり、普段仲良しの友達のところまで行って話しかけたりしてしまいます。

【まなびの教室では】

- ☆子どもの興味関心や学習したいという意欲を大切にするとともに、認知特性に応じた指導を行います。
- ☆指導場面の環境を整えて、児童が集中して課題に取り組めるようにしています。
- ☆対人関係や社会性の指導については、グループでの指導を取り入れるなどしています。
- ☆つまずきの背景として考えられる要因を想定して指導方法を工夫します。

【本人や保護者の方の声から】

- 板書をノートに写すのに精一杯で授業がなかなか聞けないことや、書き写す前に先生が黒板を消してしまうこともあるので残念です。
- 時間割や教室が変わるときには、事前に具体的な説明があると安心して動けます。
- 手先が不器用なので、コンパスや分度器の使い方は分かるのですが、使いこなせないことを分かっていただけだと思います。
- 「分からない、できない。」のではなく、支援があればできることがたくさんあることを知って、応援してほしいです。



まぶしさへの配慮

光を避ければ華麗なジャンプ



光を避ければ!!

チェンジ!!



華麗なジャンプ!!

Aさんは明るさに順応するのが苦手で、日差しの強い屋外だとまわりがよく見えません。怖くて外遊びに加われないので、クラスメイトからも孤立しがち。みんなに屋内で遊ぶよう呼びかけてみるなど少しの配慮によって、一緒に活動したり活躍できたりして自信をもつことができました。

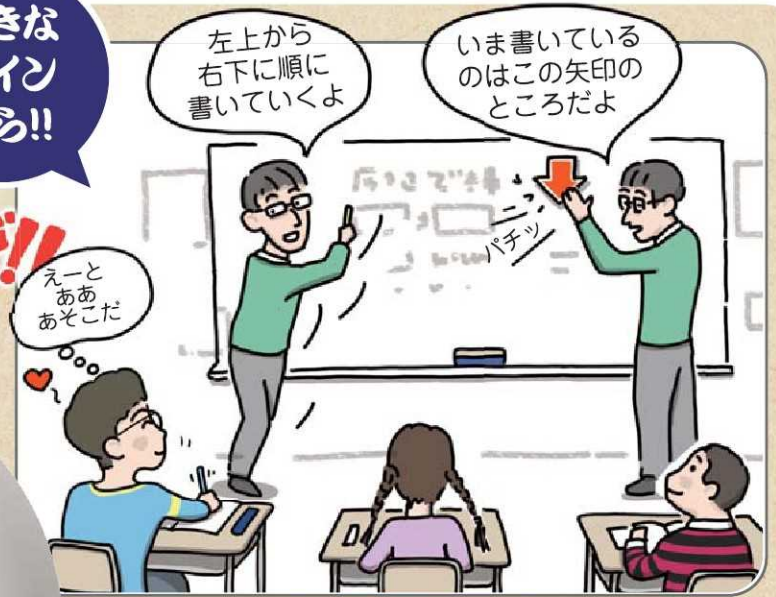
こっちはどっち?

大きな矢印 大きなサポート



大きな
サイン
なら!!

チェンジ!!



ついで
ゆけた!!

視野が狭いB太くんは、指された箇所を探すのが苦手。「こっち」「あっち」といった指示語だけだと、どこを指しているのかわからず、理解や行動が遅れてしまいがちです。視線を移しやすいよう大きな矢印を貼ったり、少し待ってあげるといった工夫によって、指示をスムーズに行動に移せるようになりました。

伝え方のコツ

特性が分かればしっかり伝わる

特性
分かれば!!

チェンジ!!

近くで表情を見せながら
伝わっているか
確かめながら
はっきりゆっくりと

へえー
そうなんだ



いい?
...のように
ルールを
変えたからね

うん
わかった
ありがと



グッド
ジョブ!!

ひっかり
伝わる!!

屋外など音が拡散したり他の音が混じる環境では、声だけを聞き分けることが難しいC美さん。外遊びのときには、大事な情報を聞き取れずにトラブルになることもしばしば。情報が伝わる工夫を先生と一緒に確認し配慮することで、全員にルールが共有され、みんなで楽しく遊ぶことができました。



今から、ルール
変えるよ!!

OK!!

OK!!

ルール通りに
やってるのに
急に違うって
...



なに
やってんだよ!!

えっ、
どうして?
...

ギャツプ!!

あんなに
大きな声で
言ったのに

まなみのまなみ

もらひと工夫

文字と視線でコミュニケーション



チェンジ!!



D絵さんは複数の声の判別が苦手で、話し手が次々変わると、会話についていけなくなりがち。自分の話題なら混乱しないので、一人で話し続けることもしばしば。伝わったかどうか表情を見ながら、繰り返したり文字にするなどの工夫をすることで、一緒に楽しく会話ができるようになりました。

NAFESの巻頭

説明と理解

違いを共有 和気あいあい



違いを
共有
したら!!

チェンジ!!



仲良
なった!!

構音障がいのあるE介くんは、特定の音を正しく発音できず、友だちからからかわれることもしばしば。正しく発音しているつもりなのにからかわれ、自信をなくしていました。先生がクラスメイトにE介くんの特性を説明し、みんなの前で評価されることで、自信をもてるようになりました。

基本は受容

受け入れられれば自信につながる



受け入れ
られれば!!

チェンジ!!

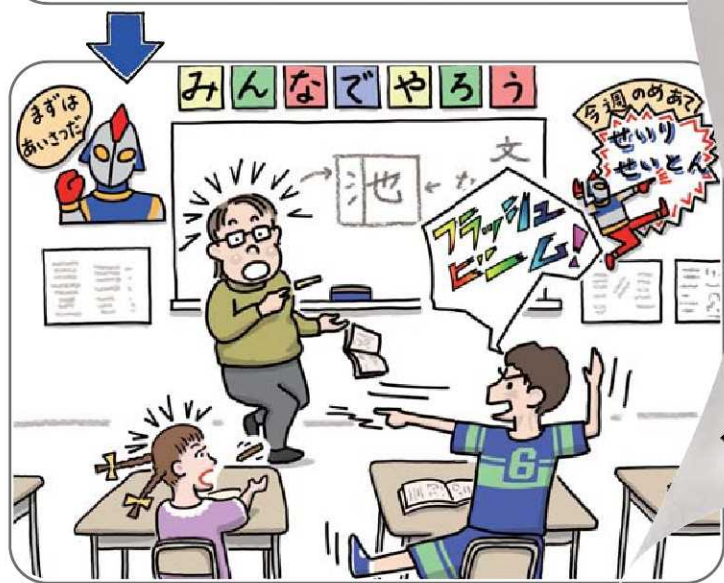


自信が
出てきた!!

吃音のあるF也くんは、人前で話すときはどうして言葉が出にくくなります。力めば力むほど、気持ちが先走ってその傾向が強くなってしまいます。先生もクラスメイトもF也くんの話し方をそのまま受け入れることで、本人も自信がもて、みんながひとつになって劇に取り組むことができました。

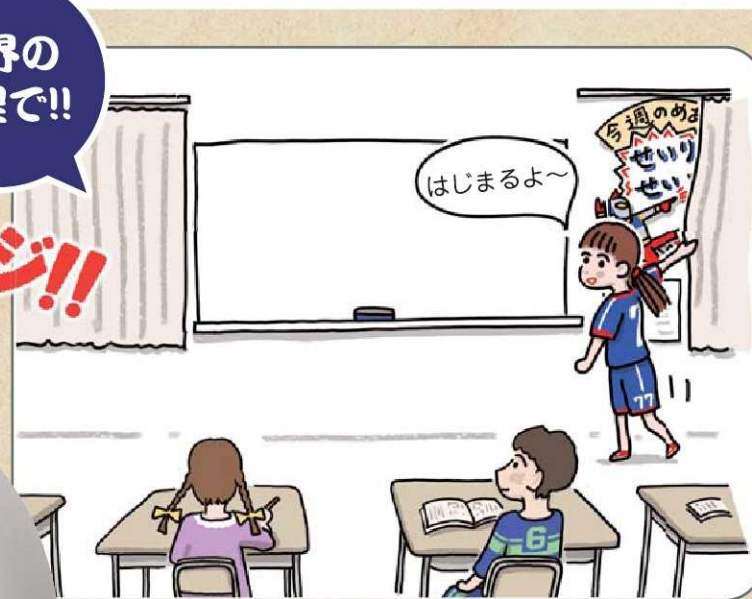
こころの整理

視界の整理で授業に集中



視界の整理で!!

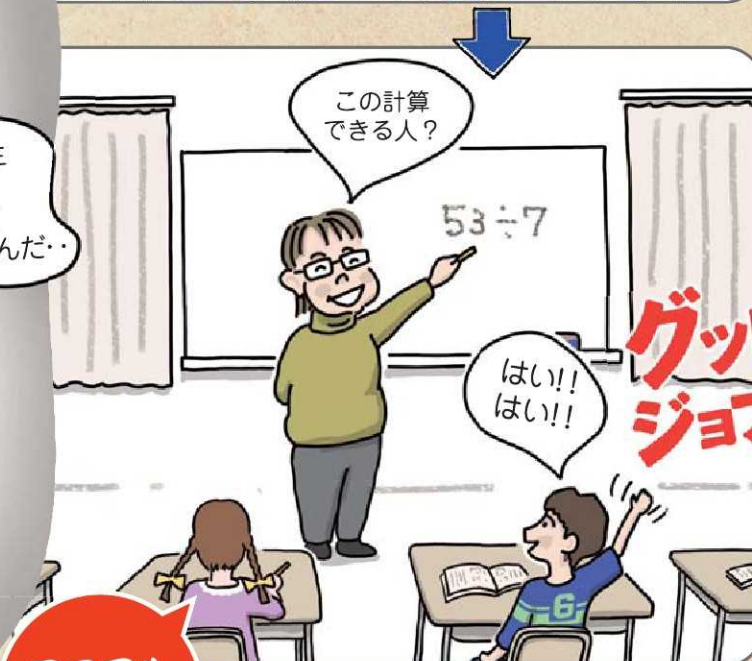
チェンジ!!



キャラが目に入ると体が勝手に動いちゃう...

もう3年生なのにどうして集中できないんだ...

ギャップ!!



こころも整理!!

発達障がい(ADHD傾向)のある郎くんは、目から入ってくる情報(刺激)が多いと、それに反応して何事も落ち着いて取り組むことができません。視界に入る教室前面の掲示等を整理し、必要に応じてカーテンで覆うことで、黒板に集中して学習できました。

ひとてまが肝心

ちょっとした工夫で自立実現



ちょっとした工夫で!!

チェンジ!!



自立実現!!

グッドジョブ!!

発達障がい(ADHD傾向)のあるJ平くんは、他のことに気が取られやすく、よく忘れ物をします。メモを取ることで持ち物への意識が高まり、必ず目にする場所にメモ帳を入れるなどの工夫により、忘れ物が少なくなり、さらに授業へも積極的に参加するようになりました。

劇的に改善

小さな道具が大きな役割



チェンジ!!

小さな
道具が!!



**グッド
ジョブ!!**



**大きな
役割!!**

発達障がい(LD傾向)のあるG代さんは、たくさんの文字が並んでいると、どこを見てよいか分からなくなってしまいます。今読んでいるところに集中できるよう、スリットの空いた厚紙を渡す工夫によって、まわりの文字に惑わされることなく、楽に音読ができるようになりました。

法則を体全体で

ルールを体感 広がる可能性



チェンジ!!

ルールを体感!!



広がる可能性!!

発達障がい(LD傾向)のあるH樹くんは、目と手の協応動作(二つの運動を連結して行う動作)が困難で、小さなマスに漢字を正しく書くことができません。その結果、漢字を覚えることも苦手でした。筆順を意識し、体全体で大きく文字を書くことで、漢字への苦手意識も少なくなり、覚えも良くなりました。